

横浜市立菅田中学校 令和4年度 学校評価報告書

(総括 A:十分達成 B:概ね達成 C:努力必要 D:改善必要)

重点取組分野	3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①併設型小中学校であることを生かし、9年間を見通した学習指導の充実を図るための授業研究交流の機会を年2～3回設定する。 ②資質・能力の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善を進めるため、校内授業研究会や授業についての教職員の相互評価の機会を年2～3回設定する。 ③学習評価の妥当性、信頼性をより高めるため、単元の学習計画の作成、授業実践、評価、改善のPDCAサイクルを確立する。	①今年度は小中授業研究の交流の場としては1月のみとなったが、各教科の授業デザインや独自教科についての話し合いがとて有意義なものになった。 ②お互いの授業を見合せて、より良い授業をデザインしていく「授業見合おう週間」という取組を行ったが、うまく機能していなかった。菅田中の実態に合わせたこれからの時代に必要な資質・能力を育む授業について、持続可能な取組を全体で考えていきたい。	B
豊かな心	①「考え、議論する道徳」の授業の充実を図るため、年間指導計画に基づいて各学年で指導案を検討し授業を実施する。 ②「人との関わり」に重点を置いた道徳教育を全校で推進するため、学校行事や校外学習等における体験的な活動の充実を図る年間指導計画・別業・「豊かな心の育成」プランを作成し、実践・検証を行う。	①神奈川区の道徳のテーマ「考え、議論する道徳」を実践するために、区の研究授業に向けて、指導案の検討を行い、授業を実施することができた。 ②「人との関わり」に重点を置いた道徳教育を推進し、学校行事や校外学習では体験的な活動の充実をはかることができた。	B
健康教育	①単元や種目に適した体力や、身体の操作方法を身に付けることができるよう補強運動等の検討を行い、実施する。 ②自発的に運動の楽しさを味わいながら、健康の増進や体力の向上を図るため、昼休み等を活用して運動を行う時間と機会を設定する。 ③日常生活におけるバランスのとれた食生活の実践を進めるため、保健体育科や技術・家庭科等において食育に関する知識を深化させる学習を行う。	①単元や種目に適した体力や、身体の操作方法を身に付けることができるよう補強運動等の検討を行い、実施した。 ②自発的に運動の楽しさを味わいながら、健康の増進や体力の向上を図るため、昼休み等を活用して運動を行う時間と機会を設定した。 ③日常生活におけるバランスのとれた食生活の実践を進めるため、保健体育科や技術・家庭科等において食育に関する知識を深化させる学習を行った。	A
キャリア教育	①他者との協働の大切さを学び、新たな視点をもつことで、他者と協働的に問題に向かう態度を育てるために職業講座を実施する。 ②学習や生活の見通しを立て学んだことを振り返りながら、新たな意欲につなげ将来の生き方を考えるためにキャリアパスポートの効果的な活用方法を検討し実践する。	①他者との協働の大切さを学び、新たな視点をもつことで、他者と協働的に問題に向かう態度を育てるために職業講座を実施した。 ②学習や生活の見通しを立て学んだことを振り返りながら、新たな意欲につなげ将来の生き方を考えるためにキャリアパスポートの効果的な活用方法を検討し実践した。	B
いじめへの対応	①生徒と教職員の信頼関係構築のため、学級担任、保護者、生徒との相談活動を年2回以上、面談を年2回(7月・12月)実施する。 ②いじめの未然防止や早期発見・対応のため、教育相談アンケートを年2回以上実施する。また、令和4年度よりY-Pアセスメントを活用し、学級の状況に応じた支援を行う。 ③いじめの再発防止に向けて、いじめ防止対策委員会を月1回以上開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。 ④いじめ防止に向けて、いじめを扱う道徳の授業を全学年で年2回実施する。全校の人権教育の取組として「人権の木」を作成する。	①予定通り行うことができた。日常的な活動、計画的な活動を両立しながら今後とも生徒・家庭に寄り添った取組を行ってきたい。 ②アンケートやY-Pアセスメントシートなどから生徒一人一人の普段表に表現されづらい面を見取ることができた。また個別に支援していくことができていた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①すべての教職員が中期学校経営方針の中期取組目標及び重点取組分野・具体的取組の実現に向けて自らの経験や役割に応じた目標設定を行い、「チーム菅田」として実践し、年度末に評価を行って、次年度の改善につなげる。 ②年に1～2回働き方改革推進委員会を開催して本校の課題を明らかにし、ワークライフバランスについての意識の向上や時間外勤務の削減に向けた具体策を設定し全教職員で共有する。	①保護者・生徒・職員アンケートの結果を昨年度と比較すると、全体に良い割合が増えている。課題解決や他者と関わり合う活動を、総合的な学習をはじめ各教科で意識的に増やしていく必要がある。 ②働き方改革推進委員会を開催して本校の課題をアンケート取り共有したが解決には至っていない。ワークライフバランスの意識の向上は図れ、時間外勤務の削減は進んでいる。	B
地域学校協働活動	①令和4年度は「放課後学び舎」(放課後学び場事業)を年間を通じて展開するとともに、学校・地域コーディネーターを養成し、次年度の地域学校協働活動の在り方を検討し、年度末に方向性を定める。 ②ブロック3校による地域学校協働活動に関する情報交換の機会を年2回設定し、各校の活動についての情報共有を行い、さらなる充実のための機会を立案する。	①「放課後学び舎」は協力者も増え、定期的の実施しているため、今後は参加する生徒の募集も工夫して後押ししていきたい。また、来年度の地域学校協働活動の在り方について学校・地域コーディネーターと打ち合わせをすることができた。 ②ブロック3校による地域学校協働活動に関する情報交換の機会を年2回設定し、各校の活動についての情報共有を行った。	B
特別活動	①よりよい学校作りに参画するリーダーの育成に向けて、生徒会活動を通して主体的に課題を見いだし解決するための話し合いを重視した学級活動を展開するとともに、実践的な内容のリーダーズ研修会を実施する。 ②集団において自己の役割を果たし多様な人々と協働して主体的に取り組む力や人間関係を形成する力を育てるために、「協働的な学び」を大切にされた学校行事の計画・実施及び検証を行う。	①よりよい学校作りに参画するリーダーの育成に向けて、生徒会活動を通して主体的に課題を見いだし解決するための話し合いを重視した学級活動を展開し、実践的な内容のリーダーズ研修会を実施した。 ②集団において自己の役割を果たし多様な人々と協働して主体的に取り組む力や人間関係を形成する力を育てるために、「協働的な学び」を大切にされた学校行事の計画・実施及び検証を行い実践した。	B
ICTを活用した教育	①見通しをもって情報活用能力を育むことのできるよう、「情報活用能力体系表」の活用と検証を行う。 ②「個別最適な学び」の実現を目指して、AIドリルや授業配信等の活用方法の研究と実践・検証を行う。 ③「協働的な学び」の実現を目指して、一人一台端末の活用方法の研究と実践・検証を行う。	①情報活用能力体系表の活用と検証を行うことができなかった。来年度は、定期的に生徒へ情報活用能力のアセスメントを行い、指導への活用を図りたい。②AIドリルの活用推進は進んできている。来年度は、横浜どこでもスタディーへの取組推進を行い、より「個別最適な学び」の実現へ近づけていきたい。③一人一台端末の活用については進んできており、生徒は「協働的な学び」を実現するための授業展開をするための基礎的なスキルを身につけられている。来年度は、より進んだ活用ができるよう、積極的に研修などを行ってきたい。	B
特別支援教育	①全ての教職員が特別支援教育の目的や意義、障害に関する知識や配慮等を理解し、適切な指導及び必要な支援を行うことができるよう、全職員対象の校内研修を年1回以上行う。 ②生徒のニーズに応え、学習を保障する場としてのキャベツルームを設置し全職員で対応する。 ③「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を適切に作成し活用する。特別支援委員会はそれのための支援・協力をを行う。	①全ての教職員が特別支援教育の目的や意義、障害に関する知識や配慮等を理解し、適切な指導及び必要な支援を行うことができるよう、全職員対象の校内研修を年1回以上行ったり、横浜型センターの機能を活用し校内研修を行った。 ②様々な生徒のニーズに応え、学習を保障する場としてのキャベツルームを設置し全職員で対応したが、特別に支援が必要な生徒が多くなり、「自学自習の場」だけではなく「学びの場」の一つとしてキャベツルームは、時間割担当の職員で可能な限り学習支援を行ってきたい。 ③「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を適切に作成し活用する。特別支援委員会はそれのための支援・協力を行った。情報等は学期ごとに更新していく方向で行ってきたい。	B
ブロック内評価後の気づき	コロナ禍でできていなかった行事が行えるようになり、子どもたちに体験的な学習活動を多く行うことができた。また、3年ぶりにブロックでの小中授業研究会を行い、子どもたちの実態を把握し、積極的な意見交換をすることができた。それぞれの部会で課題を共有したことをこれからの教育活動に生かしていきたい。ICTの活用を多くの授業で行えるようになってきている。小学校でも使えるようになってきているので、小学校との活用例についてなどの情報交換も行っていき、小中の接続をよりスムーズにできるようにしていきたい。		
学校関係者評価	横浜市学力・学習状況調査等の結果から見て、菅田中ブロックの児童生徒は育成すべき資質・能力としての「知識及び技能」に課題があること、また、スマートフォン等の電子デバイスの一日の使用時間が長くなることが明らかになっており、これらはこれまでかなりの期間継続して課題となっている。「独自教科」の導入に向けてブロック及び3校のキャリア・マネジメントを行っていく中で、これらの課題解決に向けての具体的な方策を示すとともに、その内容について児童生徒、保護者、教職員、地域と共通理解を図る取組を行い、成果につなげてほしい。		
中期取組目標振り返り	令和4年度から3年後を見据えた中期学校経営方針の策定をしてこの1年間取り組んできた。新型コロナウイルス感染症の予防や対策のため、教育活動においては制限がある場面もあったが、それでもその前の2年間に比べれば、生徒に多くの経験をさせることができた。保護者・生徒・職員アンケートの結果を昨年度と比較すると、全体に良い割合が増えている。ICTについては、各教科をはじめ生徒の活動でも活用が進んだと考える。しかし、学校教育目標の力の育成に向けて、課題解決や他者と関わり合う活動を、総合的な学習をはじめ各教科で意識的に増やしていく必要があり、菅田中の実態に合わせたこれからの時代に必要な資質・能力を育む授業について、来年度はさらに教職員全員で持続可能な取組を考えていきたい。		